

令和7年度 八王子立元木小学校経営計画

校長 河野 佳子

1 目指す学校

《学校教育目標》

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。このような時代にあって、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報の中から必要な正しい情報を取捨選択し、新たな価値につなげていくことが求められている。

そこで、「持続可能な社会の創り手」となるために必要な資質・能力を育成していくとともに、自分らしく主体的に未来に向かって進む児童、他者と協働しながら社会を生きることができる児童の育成を目指し、「確かな学力の定着と人と関わる力の向上」を重点目標として掲げ、次のとおりに教育目標を定める。

- | | |
|----------------|-----------|
| ●考える子（本年度重点目標） | ○思いやりのある子 |
| ○やりぬく子 | ○元気な子 |

●「考える子」育成のために

ICTのメリットを活かした活用とともに、ノートやワークシートのメリットを活かし、併用を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。また、ユニバーサルデザインを意識して、学習の基礎基本が「分かった。できた。身に付いた。」と実感できる授業を行う。

そのために、環境づくりを通して、言語能力を土台として、児童の情報活用能力、論理的思考力を育て、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行うとともに、個に応じた課題を家庭学習やパワーアップタイム等を活かし、習得目標問題の確実な定着を図り、学力・自己肯定感の向上を目指す。

○「思いやりのある子」育成のために

道徳や特活の時間を軸に全教育活動を通して、たくさんの関わりをもち、友達の良さと自らの良さを認め大切に、すべての友達、保護者、地域の方々に思いやりをもって接することができる心情・態度を育て、自己有用感、他者理解・他者尊重の向上を図る。

さらに、縦割り班等の異学年交流も効果的に活用することで、人や自然と仲良く共生できる子どもを育てるとともに、いじめ・不登校への適切な対応をしていく。

○「やりぬく子」育成のために

ねばり強く取り組み、ゴール（目標）に向かって努力し、最後までやり抜き、振り返ることでスパイラルに自分を高めていけるように、自分の得意なことを見付けさせるとともに、自分のゴール（目標）を自分自身で設定できる力を育成する。

○「元気な子」

よりよい生活習慣を身に付けると共に、休み時間には元気によく遊び、体力や運動能力向上に努めるとともに、食育を通して、毎日明るく元気に学校に来る気力、体力を充実させる。

※今年度の重点目標

本年度は、『考える子』を重点目標とし、学習・生活スタンダード、単元配当表等カリキュラムマネジメントにそって、学級経営はもとより学年経営・ブロック運営に重きを置き、「チーム元木」として、一人の児童をできうる限り最大限の大人が情報共有して、協力して育てていく。

【スローガン】

学校・保護者・地域の方々の連携による

「チーム元木」で「笑顔があふれる学校」に。 ～共育・協育、今日行く～

- ・共育・協育…一人の児童をできうる限り最大限の大人が情報共有して、協力して育てる。
- ・今日行く…児童への初期対応・指導・支援は、相手の気持ちに寄り添って、今すぐに行う。

2 中期的な目標と方策

本校は、地域がもつ自然や文化、地域に暮らす人々との関わりを重視し、実践的な体験活動を通して、児童の学習意欲や自然や文化に親しむ心情を育む教育を特色ある教育活動と位置付けて、教育実践を推進している。その教育活動が、現在、未来に渡り推進し続けていくことのできる強みでもある。

この本校がもつ強みを生かすとともに、さらに学校・保護者・地域の方々との連携を深め、小中連携も踏まえた地域の学校として、さらに期待に応え信頼される学校となるために、以下の中期的な目標を設定する。

(1) 確かな学力の育成

- ①新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実を図るため、基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善及び個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

(2) 豊かな心の育成

- ①あらゆる偏見や差別をなくし、児童が一人ひとり互いに尊重し合い、自他を敬愛する態度の育成を図るよう、人権教育及び道徳教育を推進し、道徳心・公共心などを養い、他人を思いやりながらよりよい人間関係を築いていくことで、豊かな人間性や社会性を育む。
- ②縦割り班活動等、異学年交流を進め、自他を大切にすることや自主性・社会性・豊かな人間性を育む心の教育の充実を図る。

(3) 健やかな体の育成

- ①体育の時間や集会、休み時間等、日常的な運動習慣の形成を図るとともに、食育を通して、児童の「食」に対する興味・関心を高める。

(4) 多様な教育ニーズへの対応

- ①児童一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援のため、校内体制の充実を図るとともに、SCやSSWを活用し、家庭、地域、幼稚園、保育園、中学校、関係機関と連携し、児童理解に基づいた教育活動を推進する。

(5) 学校・家庭・地域の連携及び小中一貫教育の推進

- ①学校運営協議会と協働し、教職員・保護者・地域の協力体制のもと学校評価を進め、PDCAサイクルを確立させて教育内容の質を向上させていく。
- ②恩方中学校、恩方第一小学校、恩方第二小学校と、学習面や生活面の系統性・継続性を重視した小中一貫教育に取り組む。

3 今年度の取組目標と方策 (◎は重点項目)

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

- ◎学習スタンダードに基づいた授業：全校で発達段階に応じた統一された指導。
- ◎ICTの利活用：ICTガイドラインを遵守し、ICTミニマムの確実な実施と効果的な活用方法の探求（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して）
- ◎習得目標問題に特化した国語・算数のICTを活用したドリル学習、個に応じた課題・宿題（学年×10～15分）、パワーアップタイム等の活用、学力調査等のアセスメントに基づいた指導を行い、個別最適な学びの実現。
- 読書活動（年間学年×1000ページ目標）の推進
- ◎環境づくりを通して、言語能力を土台として、情報活用能力、論理的思考力（必要な情報選択・読解力）を育てる授業。ペアやグループからクラス全体に広げていく対話的な学びの充実
- 学習指導要領に準拠し、単元配当表に基づいた先を見通した漏れの無い教育活動の推進

イ 生活指導

- ◎生活スタンダード・教室環境のUD（ルールのある空間で皆が快適に生活できる環境整備、暗黙のルールの見える化、子どもの良いところが発揮される環境）及び体罰・暴言の排除等の徹底
- ・友達の良さと自らの良さを認め大切にする自己肯定感、自己有用感、自尊感情の育成、他者理解・他者尊重の精神の向上
- ・笑顔であいさつ・感謝をしっかりと伝えられる子を育成し、けじめを付け、みんなが気持ちよく過ごせる環境醸成
- 人的環境のUD（「分からない」「できない」が出しやすいクラス・学年づくりの推進。毎週のいじめ対策委員会を軸に、多面的な児童理解、パワーアップタイム等を活用した個に寄り添う指導を通して、いじめ・不登校の未然防止・適切な組織的な対応）
- ◎特別支援教育の充実（すまいる教室との連携、個別支援シート等の有効活用、個に応じた指導の推進）
- 外遊びの奨励（週1回一緒に外へ）、クラスレクの活用、体育の日常化
- 清掃活動や当番活動にしっかり取り組み「人の役に立つことを喜びとする」児童（教員は見回り・賞賛を重視）規律と秩序のあるきれいな学校
- 登下校・校舎内外での安全確保
- 校内委員会やSC、SSW、関係機関等との連携と活用

ウ 学校運営

- ◎一人の児童をできる限り最大限の教職員が関わっていくために、ブロック運営を強化し、担任及び専科・すまいる教室教員が連携を密にして、多面的な児童理解による指導・支援を行っていく。
- 必置主任・ブロック主任を軸として、組織として対応し、報告・連絡・相談を重視し「チーム元木」として全員が協働する、笑顔で明るく元気な職員集団を形成
- 学年運営強化：学年内交換授業・道徳で授業力・生活指導対応力等の向上
- ◎（※１）教職員のワークライフバランス推進のため、東京都教育委員会が示す「働き方改革」に則り、校務の効率化（分掌提案・教材のデジタル化・共有化、ICTの効果的な活用等）による負担軽減で児童と向き合う時間を確保し、教員同士が互いに支えあい、定時退勤（月１回以上指定）日だけではなく、各自の都合に合わせて、週に１日以上以上の定時退勤を目指す。

エ 特別活動・その他

- ◎協働的な学びにつながる学級会等の計画的な実施
- 異学年交流・縦割り班活動での児童の内面の充実・校歌がしっかり歌える子の育成
- 環境整備、安心・安全・きれいな学びの場づくり推進
- ◎with コロナ・after コロナにおける危機管理、教育活動の再構築、及び、学校運営協議会をはじめ、保護者・地域を積極的に活用し、しっかり情報発信し信頼される学校

オ 能力開発、研修・研究

- ◎授業観察（計画的に相互参観）で、ICTを利活用した個別最適な学び・協働的な学びを意識した授業、学級会をそれぞれ年間１回以上実施。
- 校内研・OJT・市教研等校外の研修会に主体的に参加・全員（校内）への還元
- ９年間を見通した教育課程の実施（小中一貫教育の推進）

（２） 重点目標と方策

上記の教育活動の目標と方策を受けて、重点項目の中からさらに厳選した重点目標と数値目標を設定し、児童・保護者・教員対象のアンケート結果等も含め目標達成をめざす。

（数字は昨年度末→今年度目標％以上）

ア 確かな学力の向上

- ◎協働的な学びを充実させ、児童が主体性をもって授業に取り組み、基礎学力の向上を目指し、校内研やOJTを通して授業改善を図る。
- ・児童：すすんで、学習に取り組んでいる。 高学年 79.2→85%以上
- ・児童：先生たちは、ペアやグループ等、友達との関わりのある授業をよく行っている。 高学年 81.8→85%以上
- ・教員：個に応じた課題・家庭学習（学年×10～15分）・補習（放課後パワーアップタイム）の実施ができて 88.9→92%以上

イ 豊かな心と社会性の育成

- ◎あいさつ・感謝、みんなが気持ちよく過ごせる環境を整え、安心して学校に通えるようにし、不登校の未然防止・早期対応を図る。
- ・児童：すすんで、あいさつをしている。 高学年 88.3→95%以上
- ・保護者：学校は、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように、生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導を行っている。 82.8→85%以上
- ◎異学年交流・縦割り班活動充実、児童の自己肯定感、他者尊重等の向上を図り自他の良さを認め大切にする心情を育み、いじめの未然防止・早期対応を図る。
- ・児童：先生たちは、いじめを起こさせない取組、発生した場合にはすぐに対応するなど、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。 84.4→90%以上

ウ with コロナ・after コロナ対応を通して行事等学校改革の推進

- 学校運営連絡協議会（年10回開催）を通し、今年の状況や全国・全都的な課題に対応していくために行事等の学校改革を推進する。
- ・学校行事を日常の学習の成果発表の場としてとらえ、運動会の種目精選による時間短縮の定着、児童の安全確保、学芸発表会毎年開催・作品展の分散開催などを定着させていく。

エ ライフ・ワーク・バランスの推進

- 全学年、学年内交換授業・道徳等を実施し、同じ授業に2回取り組むことで、授業の質を高め、やりがいを向上させるとともに、教材研究等の授業準備の時間を削減させる。
- 同上（１）ウ 学校運営（※１）